



「不便」がヒトを強くする

～ 学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 朝日東小の子 ～



校長 齊藤 敦史

立春が近づき、日に日に温かな光がさす時間が長くなりました。いまだ震災被害の全容が見えない能登地震のニュースを目にする度に、胸が痛い思いになります。被災地の皆様の安全と、一日も早い復興、平穏な日常が戻りますことを、心より御祈念申し上げます。

一方本校では、ご家庭や地域の皆様にも支えられ、無事、3学期をスタートできました。感謝の思いでいっぱいです。早いもので、今年度も残すところあとふた月。朝東っ子は皆、毎日を元気に、学校生活を送っております。

先日、清掃の時間に、ある児童が「雑巾がけは面倒くさい。家ではお掃除ロボットがやってくれるのに。」と不満を口にしながら掃除しているのを見かけました。また、とある学年の授業では「辞典で調べるのはとても大変だ。学校じゃなければ、スマホを使って一発で調べられるのに。」と文句を言いながらページをめくる児童を見かけました。さらには、先月末、ある保護者の方より「和式トイレを見たことがない。経験もない。入学したら、うちの子はどうすればいいのか。」とのご質問を頂戴しました。これらの場面に遭遇し、私は改めて「子どもたちに必要な力とは何なのか」考えてしまいました。

確かに、令和の世の中は、私たちが幼少だった頃と比べ、とても便利になったと感じます。スマホ1つで何でもできますし、家に居ながらクリック1つで何でも購入できます。コンビニへ行けば出来上がったお弁当が買えますし、デリバリーで注文もできます。家に帰ればセンサーで部屋の照明がつき、タイマー予約で洗濯機が回り、自動で風呂が沸く、部屋中をお掃除ロボットが走り回って綺麗にしているかもしれません。コスパやタイパという流行り言葉の下、近い将来はさらに利便性や効率性を追求した便利グッズ、AIやchatGPTによる全自動化システムが席卷し、街中を走る乗り物は全て自動運転になるかもしれません。事実、世の中が便利になることは喜ぶべきことだとは思いますが、

しかし、私は、ヒトを育てる職業に就いている立場として、本当にそれでよいのか疑問です。便利になると、ヒトは手間をかけず、頭も使わなくなりますが、それでよいのか。自ら考えたり、解決のため工夫したり、自ら行動を起こしたりするといった力は不要なのか、常々疑問と葛藤を抱えていることも事実です。

我々大人が子供だった頃は和式トイレがあるのは当たり前、掃除は箒(ほうき)で掃いた後に雑巾で水拭き、分厚い辞典は1枚1枚めくって調べ、何度も書いて覚える。家に帰ったらお風呂を掃除して湯をためる、残り水で洗濯し、脱水後は1着ずつ干す。その日ある食材を使って調理する等家の手伝いも行っていました。おかげ様で、こんな私でも、一人暮らしを始めた際、あまり困ることもなく「生きていく力」を身につけることができました。

用途や求めに応じて、便利なものを取り入れる必要はありますが、逆に、便利なものが無ければ無いで、ヒトは考え工夫しますし、他人と話し合って協力もします。これこそ、変化の激しい今の時代に求められている「生きる力・生きぬく力」なのではないでしょうか。

安心安全は大前提としても、本校では、最新の技術とともに、あえて『不便』な場面も設定することで、直面した朝東っ子たちが、解決に向けて自ら考え、知恵を絞って工夫し、友人らと共に乗り越え解決する環境も整えてまいりたいと思います。そのような経験を経て大人になれば、どんな想定外の事が起こっても、冷静に考え、正しく判断し、同僚らと共に、解決に向けた道のりを逞しく切り開いていける強いヒトになれるでしょうし、本校で『不便』を学んだ卒業生こそ、将来、世界で活躍する人材であろうと期待しております。

ところで、「1月は行く 2月は逃げる 3月は去る」という言いまわしをよく耳にします。先月、3学期が始まったと思ったら、もうすでに2月。そろそろ折り返しを迎えます。あと2ヶ月で令和5年度も終了し、新たな一年が始まります。朝東っ子の皆さんには、一日一日を大切に、今年度のまとめをするとともに、次年度への準備を始めてほしいと思います。ご家庭や地域の皆様におかれましては「学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ朝東っ子」の思いを共有していただき、今月も引き続き、本校の教育活動へのご理解・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。